

2016 年夏
福島を感じて考えるスタディツアー
「スタ☆ふく」東和田舎暮らしツアー2016
～感じよう！東和の和と輪と笑～

活動報告書

2016 年 10 月

企画:スタ☆ふくプロジェクト



助成:住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム—活動・研究助成—2016
年度

目次

1. はじめに	2
2. 企画背景	3
3. 企画趣旨、目的	4
4. 団体概要	5
5. ツアー詳細	8~18
① 概要	8
② ツアー行程	9
③ アンケート結果	15
④ 参加者の声	17
⑤ 本ツアーの価値・評価	18
6. 広報・メディア掲載について	19
7. ご協力いただいた方々	22
8. 総括	23
9. お問い合わせ先	25

1. はじめに

2012年4月から始まった弊団体の活動も5年目となりました。福島の今を発信しようと企画した『スタ☆ふく』のツアーも今回で17回目となります。「東和田舎暮らしツアー2016～感じよう！東和の和と輪と笑～」という今回のツアーは、13名のお申し込みをいただき無事ツアーを実施することができました。東和でのツアーは、私たちの団体では最も多く実施しており、今回で6度目となりました。これも多くの方々のお力添えあってのことです。ご協力いただいた方々への感謝の意も込め、そしてより多くの方に私たちの活動を知っていただき、福島を知るきっかけになっていただきたいと思います。報告書を作成しました。この企画書を通して、少しでも私たちの活動や福島を知っていただけたら幸いです。



2日目 昼食づくり後の集合写真 —ふくしま農家の夢ワインにて—

2. 企画背景

「福島の実状を実際に見て体験することで、福島への関心を深めてほしい。」という活動理念から、2012年4月JASP(Japan All Student Project)という団体の1プロジェクトとして発足し、その後福島を感じて考えるスタディツアーを作るため発足したのが「スタ☆ふくプロジェクト」でした。これまで、いわき市・二本松市・会津若松市などの県内7カ所で計16回、ツアーを実施してきました。地域の人々との交流を中心としたプログラムを通して、福島のありのままの現状を見てもらい、その地域ごとに課題に向き合う人々の声を発信し、風評被害の払拭や福島への関心を生み出すことで、震災からの復興や地域活性化の一助となるためのツアーの企画をしています。多くの方から「今後もツアーを企画してほしい」と、応援のお声をいただいております。企画者である私たち団体が一番に「福島」を学び、「福島」から学び、ツアー参加者や地域の方々と共に「復興」について、福島県や各地域の「未来」について考え、関わり続け、地域と参加者をつなぐ架け橋になるよう、今後も継続的に活動していきたいと考えております。

今夏の「東和田舎暮らしツアー2016」は福島県二本松市東和地区で行いました。東和地区でのツアーは今回で6度目となります。これまでに構築してきた東和地区とスタ☆ふくとの間にある関係性から、東和と継続して関わっていききたいという想いがありました。震災から5年が経ったこともあり、復興、風評被害の払拭への取り組みだけに注目するのではなく、東和地区で活発に自分のやりたいことや、楽しめる活動を考え、様々な方面で活動している東和地区の人々をより多くの人に知ってほしい、そしてその人々の暮らしを体験してほしいという想いがありました。参加者だけでなく、東和の方々も参加者との交流からなにか今後への活力やヒントを得ることができれば、そして東和のより一層の地域活性化につながるのではないかと考えたことが本ツアー企画実施に至った背景となります。

3. 企画趣旨、目的

二本松市東和地区にはさまざまな方がいらっしゃいます。東和地区には耕作放棄地が沢山あるため、その土地を活かすために新規就農者の受け入れを行っていたり、農家の皆さんが協力して一からワイナリーを設立していたり、普段からあるもの探しを行っている方がいます。また、東和地区には農家民宿が多くあり、地域の方のあたたかいおもてなしを受けることもできます。東和で行われているこれらの活動を知ってもらうことで、東和の方の想いやあたたかさを感じてもらいたい、ツアーを通して沢山地域の方と交流して欲しいと考えました。

そこで今回は「東和田舎暮らしツアー」ということで、実際の東和での“暮らし”を感じることができる収穫体験や昼食づくり、箸づくりなどの体験をしていただき、自然に囲まれホッとできる“田舎”を存分に感じてもらえる民泊や、新規就農者の方々から見た東和の話を聞くなどをプログラムに盛り込みました。東和を感じ、そこから得たことを自分の生活に繋げてほしい、東和に興味をもってほしい、という想いで企画しました。

<企画目的>

- ・東和ならではの良さを知ることでもた来るきっかけとする。
- ・東和の暮らしや取り組みを知り、生活に対する意識の向上を目指す、また、東和以外の地域にも興味を持つきっかけとする。



—東和田舎暮らしツアー2016 企画メンバー—

4. 団体概要

『スタ☆ふくプロジェクト』は2013年4月に母体団体であった『全国学生プロジェクト(JASP)』から分離独立しました。JASPは東日本大震災をきっかけに福島大学の学生有志を発起人として全国の学生がつながり、日本の復興への若者の無限の可能性を発信することを目的に2011年10月に設立されました。2012年3月にのべ1000人が参加したタスキリレーや、福島市内で行われた鎮魂イベント「JASP in FUKUSHIMA」などで成功をおさめました。これらのイベント後、自身が被災地に出向きリアルな福島を五感で感じること、震災に対する自分の立場や考え方を明確化することを目的に2012年夏季(8月～9月)福島を五感で感じる旅行「福島スタディツアー」企画を提案・実施しました。

その後、『スタ☆ふくプロジェクト』は2013年4月に「福島を五感で感じて考えるスタディツアー」を主な事業とする団体としてJASPから独立しました。それ以来、被災後の福島のイメージの改善や福島に住む人々の主体性の喚起を目的に、まちづくり・地域おこし、その土地の産業などに焦点を当て、福島県会津若松市やいわき市、二本松市などで体験型のツアーを計17回企画・実施してきました。現在、福島大学の学生によって組織され、2016年9月31日現在18名で活動しています。

【団体ビジョン】

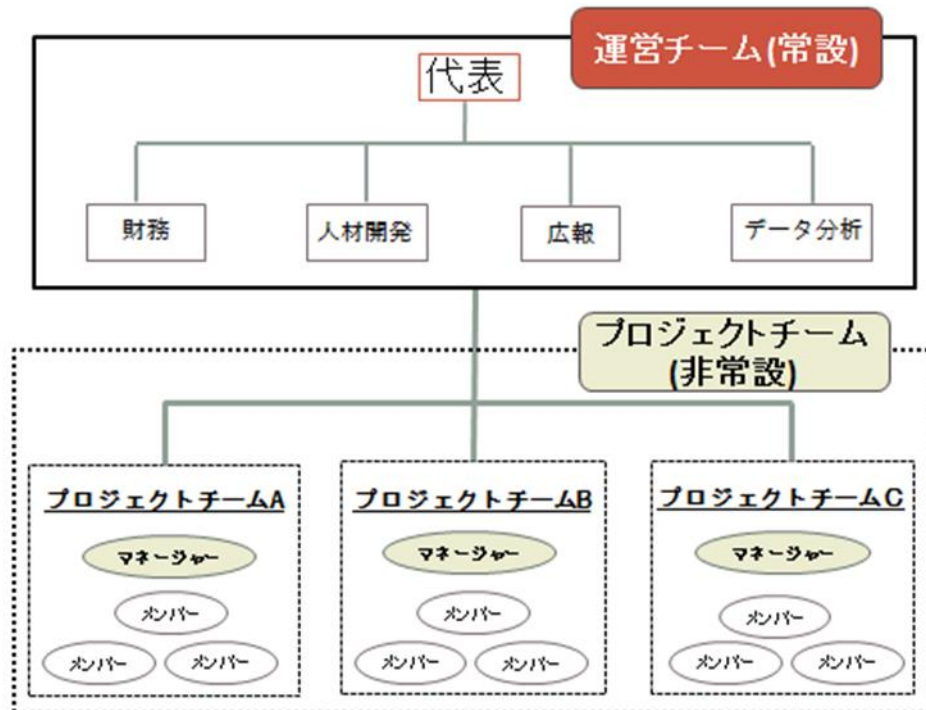
「先進的な地域活性化モデルとしての福島」の実現

【受賞歴】

2013年6月 観光庁主催『若者旅行を応援する観光庁官賞「東北ブロック賞」』受賞

今しかできない旅がある
若林

【組織図】



【構成メンバー (2016年9月31日現在)】

～運営チーム～

代表	菊地実咲	人間発達文化学類	2年
人材開発	伊藤如晏	経済経営学類	2年
広報	菅野ゆう	行政政策学類	2年
データ分析	黒澤和也	経済経営学類	4年
財務	牧内美樹	経済経営学類	2年

～活動メンバー～

阿部晴佳	行政政策学類 4年	遠藤圭一郎	経済経営学類 2年
田辺将大	共生システム理工学類 4年	佐藤美紗	人間発達文化学類 2年
羽賀さやか	行政政策学類 4年	戸田龍佑	経済経営学類 2年
三浦菜生	行政政策学類 4年	長沢梓	経済経営学類 2年
渡辺直子	人間発達文化学類 4年	宝槻亮汰	行政政策学類 2年
平澤和弥	経済経営学類 3年	小室芽美	経済経営学類 1年
安齋瑞希	人間発達文化学類 2年		

プロジェクト開始：2012年4月

団体発足：2013年4月

【過去のスタディツアー】

2012年8月	「スタ☆ふく 水産・漁業ツアー」	いわき市	(32名動員)
2012年9月	「スタ☆ふく 観光業ツアー」	喜多方市	(27名動員)
2012年9月	「スタ☆ふく 農業ツアー」	二本松市	(25名動員)
2012年12月	「スタ☆ふく 冬の二本松ツアー」	二本松市	(18名動員)
2013年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(37名動員)
2013年9月	「スタ☆ふく まちづくりツアー」	二本松市	(33名動員)
2013年11月	「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー (子ども)」	郡山市	(15名動員)
2013年11月	「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー (食)」	福島市	(12名動員)
2014年8月	「スタ☆ふく 霊山町子どもツアー」	伊達市	(20名動員)
2014年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(32名動員)
2015年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町	(19名動員)
2015年2月	「スタ☆ふく 東和田舎暮らしツアー」	二本松市	(13名動員)
2015年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(40名動員)
2015年9月	「スタ☆ふく 東和農業ツアー」	二本松市	(15名動員)
2016年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町・喜多方市	(20名動員)
2016年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(29名動員)
2016年9月	「スタ☆ふく 東和田舎暮らしツアー」	二本松市	(12名動員)

【団体連絡先】

〒960-1296 福島県福島市金谷川1 福島大学学生課 「スタ☆ふくプロジェクト」

Mail : сутa.fuku@gmail.com

5. ツアー詳細

① ツアー概要

【タイトル】

「東和田舎暮らしツアー2016」
～感じよう！東和の和と輪と笑～

【実施日】

2016年9月10日(土)～9月11日(日)

【実施場所】

福島県二本松市東和地区

【参加者動員数】

計 12 名

【参加スタッフ】

菅野ゆう (プロジェクトマネージャー・福島大学2年)
長沢梓 (福島大学2年)
佐藤美紗 (福島大学2年)
田辺将大 (福島大学4年)
菊地美咲 (福島大学2年)
牧内美樹 (福島大学2年)
安齋瑞希 (福島大学2年)

【参加料金】

15,600円(女性8名には女性割引適用で12,600円)

②ツアー行程




1日目 9月10日(土)

10:00	郡山駅集合	スタッフがプレートを持って出迎えました。
11:00	二本松駅出発	
11:30	基調講演	<p>道の駅ふくしま東和を訪れ、ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の理事長である武藤一夫さんに、ゆうきの里の活動や東和の農業や新規就農者の受け入れについてお話しいただきました。</p>  
12:30	昼食	<p>道の駅ふくしま東和で出している「あだたら恋カレー」をいただきました。ここで参加者の自己紹介も行いました。</p> 


<p>13:20</p>	<p>体験プログラム ～箸づくり～</p>	<p>農家の大内正勝さんと新規就農者の梅谷勝義さんに教えていただきながら、桑の箸と檜の箸を削って自分だけの箸を作りました。</p>  
<p>15:50</p>	<p>新規就農者の対談</p>	<p>隠津島神社の参宿所に移動して、4名の新規就農者の方に、東和を選んだ理由や東和の地域はどんなところなのかを話していただきました。司会進行はゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の事務局長の武藤正敏さんに担当していただきました。</p>  

<p>17:10</p>	<p>懇親会</p>	<p>新規就農者の対談で話していただいた新規就農者の方と正敏さんにご参加いただき、対談で疑問に思ったことやもっと聞きたいことなどを楽しくご飯をいただきながらお話して大変盛り上がりました。</p>  
<p>20:00</p>	<p>民宿へ</p>	<p>民宿の方に迎えていただき、3~4人に分かれて各民宿に移動しました。民宿のお父さんお母さんとお話ししたり、おつまみをいただいたり、あたたかいお出迎えをしていただきました。</p>  

2日目 9月11日(日)

<p>～9:00</p>	<p>農作業体験</p>	<p>早朝、各民宿にて、昼食で使う食材を収穫しました。</p> 
<p>9:30</p>	<p>斎藤社長のお話 ワイナリー見学 リンゴジュース搾汁</p>	<p>“ふくしま農家の夢ワイン”を訪れ、斎藤社長からワイナリー設立や現在行っていることについて、外のゆったりした雰囲気の中でお話いただきました。</p>  <p>その後ワイナリーの中を社長に案内していただきました。</p> 

		<p>リンゴの搾汁も体験し、出来立て100%のリンゴジュースを味わいました。</p> 
11:00	昼食づくり・昼食	<p>ピザ、ざくざく、おにぎりの3つの班に分かれて、収穫した野菜を使い調理しました。</p>  <p>自分たちで収穫して調理した料理は絶品でした。</p> 

13:30	まとめ・ふりかえり	<p>道の駅ふくしま東和に場所を移し、2日間を振り返り、感じたことや学んだことを共有し、かるたという形で思い思いに表現しました。</p>  
16:00	お土産購入	
17:00	二本松駅解散	
17:30	郡山駅解散	皆様お疲れ様でした！

②アンケート結果

○ツアー満足度全体平均

3.91/4.0 ポイント

	悪	～	～	良		
	1	2	3	4	計 (人)	平均
① ツアー全体	0	0	0	10	10	4.0
② 料金	0	0	3	7	10	3.7
③ タイムスケジュール	0	0	1	9	10	3.9
④ お食事	0	0	1	9	10	3.9
⑤ 宿泊先	0	0	0	10	10	4.0
⑥ スタッフ対応	0	0	1	9	10	3.9
⑦ コンテンツ	0	0	0	10	10	4.0
全体						3.91

○ツアー参加者状況

●参加者人数…12人

●学生：社会人…4：6（参加者回答母数=10）

●福島県内出身：福島県外出身：未記入…2：7：1（参加者回答母数=10）

●男：女…5：5（参加者回答母数=10）

●参加者年代（参加者回答母数=10）

10代…3人

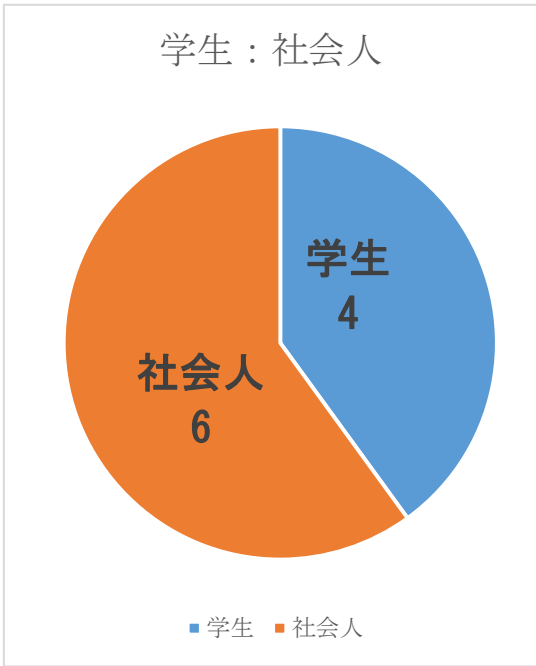
20代…3人

30代

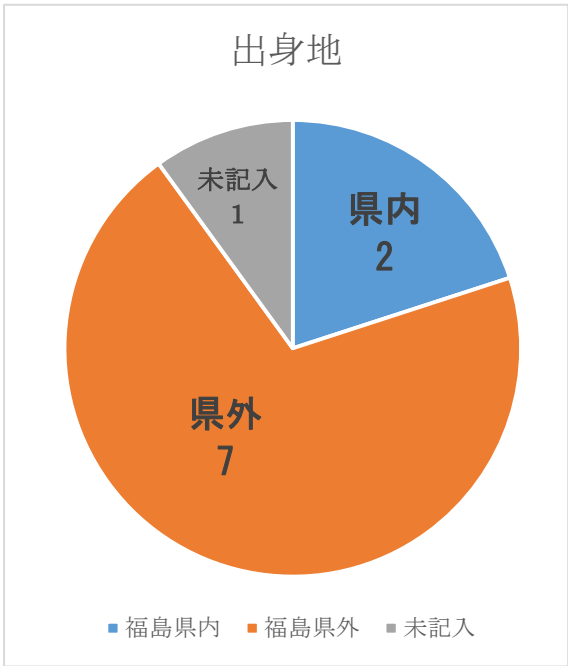
40代…2人

50代

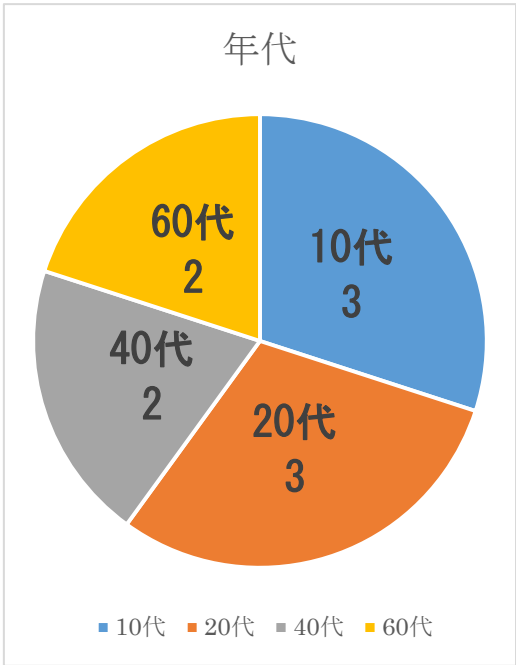
60代…2人



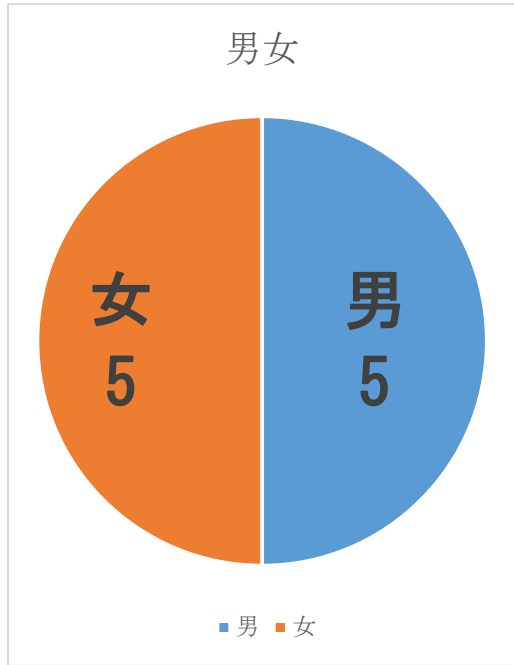
学生と社会人を比べると社会人の方が若干多いようでした。



福島県外出身の方にも多く参加していただいています。



様々な年代の方に参加していただいています。



男女比は5:5となりました。このツアーでは女性割引を取り入れました。

③参加者の声（アンケートより）

東和の人たちの人を受け入れる姿勢と温かさに驚きました。東和のような町が全国に広まってほしいし、伝えたいと思いました。（10代女性/学生）

今回で4回目の参加になりましたが、毎回クオリティーの高い企画を作ってくださいありがとうございます。毎回到それぞれ異なる体験・交流があり非常にうれしく思います。次回も参加したいと思います。（60代女性/社会人）

コンテンツのすべてがとても充実していて、すべてに共通することで、東和の人のあたたかさ、参加者の方の熱い思い、スタッフのみなさんのおもてなしが一番印象に残っています。（10代 女性/学生）

東和の人の言葉や人柄。みなさんあるもの探しをしていく姿勢やできない理由ではなくどうやったらできるようになるのか考えるという考え方をもった方ばかりで、だからこそ注目される地域へとなっているのだと分かった。（20代女性/学生）

コンテンツの一つ一つがとても有意義だったので選ぶのが難しいですが、新規就農者の対談が印象に残りました。特に I ターンの方に対する東和の人の温かさがやりとりを見ていて伝わってきました。（20代男性/社会人）

新規就農と地元の方との交流のあたたかさ、そして地元の協力してくれた方々とスタッフの連携の良さや信頼感。ビックリするほどで、感動しました。（60代男性/社会人）

④ツアーの価値・評価（2016年9月21日ツアー反省会より）

今回のツアー企画で成し遂げられたこと、成し遂げられなかったこと、今後の地域への関わり方などを、参加者や地域関係者などの視点も踏まえて考察しました。

●本ツアーで成し遂げられたこと

(1)参加者にとって

- ・東和の活動や暮らしの工夫などについて知ることができた。
- ・地域の方のあたたかさを感じることもできた。
- ・箸づくりや農家民宿など普段できない体験ができた。
- ・地域の方やスタ☆ふくの学生などと新たな交流の場になった。

(2)地域にとって

- ・東和について知ってもらいきっかけになった。
- ・地域外の人とつながり、交流の輪を広げることができた。
- ・地域の方同士の意見や想いを知る機会となった。

●今後の東和との関わり方について

地域の方にツアーの感想やツアー後の変化、改善できる点、良かった点などを伺い、今後のツアー企画や東和での企画について検討する。

東和ではイベントが多く開催されており、ツアー企画にご協力いただいた「ふくしま農家の夢ワイン」や「ハーモニー」もイベントを開催している。ツアー企画以外でもそのような機会に足を運んで参加し、私たち自身がより東和を知る。また、東和のツアー後の地域の変化にアンテナを張る。

6. 広報・メディア掲載について

< 宣伝方法・経緯 >

7月25日	募集開始
8月31日	募集締め切り・ツアー催行決定

- ・スタ☆ふく HP (<http://sutahuku.jimdo.com/>)
- ・Facebook ページ
- …イベントページ作成、リレー投稿、参加希望者へコンタクト
- ・twitter アカунト (@Study_Fukushima)
 - …準備の進捗状況やツアー告知などをこまめに発信

- ・テレビ局、ラジオ局、新聞社への取材依頼
- ・告知協力をお願い
 - －福島大学教授、ゼミ
 - －各大学のボランティアサークル、学生団体、
 - －ボランティア、観光、農業に関連する団体

< メディア掲載履歴 >

▽ラジオ

- ・7月29日 ラジオ福島
「おらが町のふるさとリポーター」生放送

▽テレビ

- ・9月16日 KFB 福島放送
「スーパーJチャンネル」

▽新聞

・8月2日 毎日新聞

農・漁業の体験を

福島大生企画 ツアー参加者募集

和らぎの空間で、さまざまな人々を巻き込む「スタ☆ふくプロジェクト」は、県内外の社会人や学生を対象とした体験ツアーを8、9月に企画し、参加者を募っている。東京電力福島第一原発事故による風評被害の払拭や地域活性化が目的。いわき市で8月に実施する「水産漁業ツアー」と、二本松市東和地区で9月に行う「東

「田舎」は9月10、11日。郡山駅で集合。解散。農業を中心に先進的な地域づくりが進む東和地区で、収穫体験や農家の民泊などを楽しむ。料金は税込込みで1万5600円、女性1万2600円、申込みは先着10人まで。

「水産」は8月27、28日。郡山駅集合で、いわき駅解散。放射性物質の検査の様子を見たり、漁船の乗船やバレーキューを通して漁師と交流したりする。料金は税込込みで一般1万7200円、学生1万3200円（学生料金での申し込みは先着15人まで）。

【坂巻士朗】

「共催で、今年で6回目。題材は、水郡線の車両か、駅舎を取り上げていけば自由。小学校の低・中・高学年の3部門で募っている。応募は1人1点。入賞作品は、車両内に展示する。問い合わせは、同協議会事務局の石川町地域づくり推進課（0247・26・9）。

JR東日本水戸支社

・8月4日 朝日新聞

福島のみま学び

漁業・農業・対話ツアー好評

福島の学生有志が、先大福島の見学、水産会社での干物づくりなどを体験。漁師と交流する場もあり、2年生の牧内美樹さん(19)は「乗しみなから学び、ツアー後も関わりかけに頂ければ」と語る。

二本松市では農家民宿に泊まり、農作業体験やワイナリー見学などを予定。2年生の菅野ゆうさん(19)は「新規就農者も多く、民宿や有機農業などで活発に取り組む人がたくさんいる」と地域の魅力を語る。

「水産漁業ツアー」は一般1万7200円で申し込みは8月5日まで。「田舎暮らしツアー」は一般1万5600円で申し込みは同日まで。学生や女性向けの割引がある。連絡先は福島交通観光(024・531・8950)。(杉村将)

【おこやみ】

故人の氏名、死亡日(年齢)の日時場所(喪主、自宅の順)

【福島市】斎藤健治さん 2日、74歳、日本橋時鐘5月町1の19、たまのこ斎苑さつき

【小湊町】長男健治さん 2日、小湊清さん 2日、58歳、6日午後2時、御山水元1の1、けんたん葬舎御山水元1の1

【南相馬市】本橋弘さん 1日、76歳、7日正午、原町区橋本町2の48の2、長男明久さん、原町区上町の11

【伊達市】菊田和朗さん 2日、86歳、6日午後1時、福島市鎌田戸前28の1、たまのこ斎苑

【磐前町】長男真司さん、本町5日、74歳、5日午前9時半、会津若松市和町の7の11、たはばな会館 夫富夫さん、専科大曲西4

【会津美里町】間松弘さん 3日、85歳、5日午後0時半、鹿野3067、ふじの大病院 長男武さん、徳島県内用5/4

昨日のいわき市での水産漁業ツアーの様子。スタ☆ふくプロジェクト 提供

1987年ご逝去の故人

・8月14日 しんぶん赤旗

**農業体験交流
福島大生が企画**

来月、二本松で
福島県二本松市東部の東和(とうわ)地域で、農業収穫体験や農家宿泊を通して、地域づくりを学ぶ一泊2日の「田舎暮らしツアー」を福島大学の学生グループが企画し、広く参加を募っています。

宿泊先農家での作業体験や、ワイナリーを見学しリンゴジュースやピザをつくり、「道の駅ふくしま東和」では新規就農者の話を聞き、交流します。

学生グループ「スター☆ふく」は福島第1原発事故1年後に発足。風評被害に抗し、地域を活性化させたいと、住民との交流を特徴とするスターツアーを企画してきました。

9月10日(土) 午前10時郡山駅集合、11日午後5時50分同駅解散のバスツアー。参加費一般1万5600円、締め切り8月19日。

女性10人先着割引1万2600円。申し込みは福島交通観光024(531)8950。

2016年8月14日(日曜日)

7. ご協力いただいた方々

<企画>

- ・NPO 法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
武藤一夫様、武藤正敏様、熊谷千恵子様
- ・大内正勝様
- ・梅谷勝義様
- ・めぐり農園 小林正典様
- ・きぼうのたねカンパニー株式会社 菅野瑞穂様
- ・塚越実様
- ・関元弘様
- ・ふくしま農家の夢ワイン株式会社
- ・ハーモニー

<企画実施>

(株)福島交通観光

8. 総括

2012年4月にプロジェクトが発足したスタ☆ふくプロジェクトのメイン事業であるスタディツアーも今回で17回を数えるに至りました。このように回数を重ね、関係性を継続できているのは、地域関係者をはじめとする、毎回のツアーにおいてご理解とご協力をいただく皆様のおかげです。東和地域では6回目となる今回のツアーは、団体として初めて「女性料金」を導入するなど、新しい試みをしたツアーとなりました。関係者への気持ちを忘れず、反省と改善を重ね、新しい挑戦をし続けることがより一層求められると感じています。

今回のツアーは「田舎暮らし」に焦点を当て、東和地域に住む方々の他の地域から来る人々を迎え入れる温かさをより感じられるようなツアーとなりました。東和の方々から聞かれる「東和に気軽に来てほしい」「東和という地域を認識してほしい、知っていてほしい」という声をもとに、様々な年代の人たちが東和の人々の温かさと多くの魅力を感じ取り、それを多くの人に伝えてほしいという願いがあったからです。その結果、参加者からは「また訪れたい」「東和のような地域が全国に広まってほしい」との声をいただくことができました。東和地域の方々の持つ他の人々を迎え入れる温かさは私たちスタ☆ふくだけでなく、参加者の印象にも大いに残っていると思います。東和地域は地域住民が主体となってイベントを企画・実施したり、参加したり、様々な取り組みがされています。いまだ知名度が低い、後継者不足などの課題を抱えていますが、様々な分野に広がるつながりを強みに交流人口を増やしたり、毎年数名ずつ移住者がいたりすることなどから、これからが期待される地域でもあります。同時に、このような課題を抱える地域に対して、これまでツアーに参加していただいた皆様がどうかかわっていくのか考えることの重要性も感じられます。スタ☆ふくプロジェクトが地域と参加者との間に立って両者をつなぐ架け橋であり続けるならば、今後も地域と参加者とをつなぐことができる事業を展開していかなくてはなりません。たった一度のツアーで終わらせないつながりを作ることができるよう、これからも地域とのかかわり方、参加者とのかかわり方を考えていきたいと思えます。

震災から5年半が過ぎ、福島が抱える課題は震災当時とは違うものになっています。私たちは団体設立当時から掲げる団体ビジョン「先進的な地域活性化モデルとしての福島」を実現するため、これまで、福島の今を知り、福島のこれからを考えるスタディツアーを企画・実施してきました。団体設立から5年目となる今、どのような目的・手段で、“福島”や地域の方々と関わっていくのか見つけ直す時期になってきています。地域の方々が福島の学生に求めること、スタ☆ふくに求めることは何なのか。それらを聞いて私たちには何ができるのか考えていかなくてはなりません。これまでも地域に寄り添い、地域を学び、スタ☆ふくが一番の理解者になろうと活動を続けてきました。その姿勢を忘れることなく、福島の抱える課題の解決に向けて、尽力していきます。

最後になりましたが、今回のツアーで協力して下さった地域の方々、そして様々な形で支援して下さった皆様、スタ☆ふくプロジェクトを見守ってくださるすべての方々に改

めて感謝申し上げます。今後とも応援していただけましたら幸いです。

2016年10月
代表 菊地実咲

8. お問い合わせ先



スタ☆ふくプロジェクト

代表：菊地実咲

住所：福島県福島市金谷川1

福島大学学生課 スタ☆ふくプロジェクト宛

Mail: suta.fuku@gmail.com

HP: <http://sutahuku.jimdo.com/>

ブログ: <http://ameblo.jp/sutafuku/>

編集

菅野ゆう 長沢梓 佐藤美紗

牧内美樹 安齋瑞希 菊地実咲